

令和7年度
岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ
活動報告書

岐阜市 企画部 総合政策課

目次

1	メンバー一覧	P1
2	活動概要	P2
3	各グループの活動報告	P3
4	活動を振り返って(ファシリテーター:岐阜大学 出村嘉史 教授)	P7
5	アンケート調査結果	P8

1 メンバー一覧

令和7年度の“岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ”は、政策立案能力の向上と若手職員が活躍する組織風土の醸成を目指し、「岐阜市(16人)」「十六銀行(2人)」「岐阜信用金庫(1人)」「あいおいニッセイ同和損保(1人)」「岐阜大学生(4人)」の産学官共同プロジェクトチームにより24人が4グループに分かれ、活動しました。

	氏名	所属
グループ①	野村 綾子	行政部 デジタル戦略課
	大橋 辰郎	ぎふ魅力づくり推進部 ぎふメディアコスモス事業課
	細川 昇吾	福祉部 指導監査課
	加藤 愛理	都市建設部 都市計画課
	川村 剛史	十六銀行 柳ヶ瀬支店
	生田 悠姫	岐阜大学
グループ②	興戸 勇樹	経済部 企業立地推進課
	磯部 なつき	福祉部 高齢福祉課
	高本 芽生	環境部 環境施設課
	田口 剛大	まちづくり推進部 まちづくり推進政策課
	近藤 李美	あいおいニッセイ同和損保
	日野 旭	岐阜大学
グループ③	丸尾 智大	財政部 納税課
	藤井 彩香	市民協働生活部 市民活動交流センター
	柴田 孝一	危機管理部 危機管理課
	國井 涼	教育委員会 教育施設課
	乙部 愛	十六総合研究所
	藤井 美羽	岐阜大学
グループ④	安藤 なるみ	企画部 未来創造研究室
	山田 貴裕	財政部 市民税課
	柴田 莉沙	基盤整備部 土木調査課
	加藤 智士	上下水道事業部 下水道事業課
	森川 諒平	岐阜信用金庫
	箕浦 日菜	岐阜大学

ファシリテーター：岐阜大学 篠田朝也 教授、出村嘉史 教授、川瀬真弓 助教

2 活動概要

活動回	活動内容
第1回(R7.4.30) 任命式 キックオフ	・任命書の交付 ・オリエンテーション ・政策形成研修:岐阜大学 篠田教授 「より良い公共経営のあり方を目指して -事業立案の基本的な考え方-」
第2回(R7.5.7)	・政策形成研修:岐阜大学 川瀬助教 「デザイン思考」 ・グループワーク:Business Origami を活用した事業構築
第3回(R7.5.28)	・グループワーク:ターゲット・課題を明確化、協力を依頼する部局の選定
第4回(R7.6.4)	・グループワーク:関係課による岐阜市の現状や課題等の説明、質疑応答
第5回(R7.6.25)	・グループワーク:中間発表に向けた課題整理・資料作成等
第6回(R7.7.2)	・個別相談会
第7回(R7.7.23) 中間発表	・提案の方向性の発表 ・関係課からの質疑 ・ファシリテーターからの講評
第8回(R7.8.7)	・グループワーク:中間発表の振り返り、提案内容のリフレーム
第9回(R7.8.21)	・個別相談会 ・総合政策課相談会
第10回(R7.9.4)	・個別相談会
第11回(R7.9.17)	・個別相談会 ・財政課相談会
第12回(R7.9.30)	・個別相談会(プレゼンテーションリハーサル)
第13(R7.10.1) プレゼンテーション	・グループ① ながらワーク+プロジェクト “職場にしながら健康になる”モデルづくり事業 ・グループ② コエル問屋町 ～現状を超える・声を上げる・声を交わす～ ・グループ③ ふるさと納税から始める 「財源を生み出し循環する岐阜市」への道 ・グループ④ #ぎふベジ認知度向上プロジェクト
}	・提案事業の予算化に向け、関係課とともに内容を精査 ・予算査定
第14回(R8.2.19) 活動報告会	・プレゼンテーション後の活動を報告

<提案の概要>

◆“働き世代の運動不足”といった課題解決に向けて「職場での運動」を推進

- ・“岐阜市職員”が「職場での運動」に取組み、**効果検証**を行ったうえで、**モデル**として市内企業への普及を目指すもの
- ・初年度の事業として、「ながら」で取組みやすい、次の2つを提案

- 提案1：椅子を**バランスボール**に置き換え
- 提案2：**スタンディングテーブル**の導入



● 事業化に向けた活動

講評及び関係各課との協議を踏まえ、既存物品等を活用し、**ゼロ予算**(R8年度)で**提案2**を**試験的にスタート**

行政部内でのスタンディングテーブルの実証実施

スタンディングテーブルの一定期間利用後の効果を**定性的・定量的に検証**(AI活用による分析も)

効果を庁内「健康相談だより」に掲載し、**他部署でのスタンディングテーブルの利用・導入**を啓発

- ・ 庁内でのスタンディングテーブル等の**利用拡大**を目指す
- ・ 職員(働き世代)の**健康意識向上**に向けた効果に期待

※提案1のバランスボールについては、広報等を通じた市民からの理解を得る必要性等の課題があり、提案2を優先

● 活動を通して得た学びなど

- ・ **課題発見力(問い立て)**の重要性 (→ AI時代に職員として求められる資質)
- ・ **現場を横断して、直接対話・交渉を重ねる**ことの重要性 (→ **現場主義**に基づく対話重視)
- ・ **限られたリソース**で**効果的な事業**を展開する難しさ (→ **ワイズスペンディング**の必要性)

3 各グループの活動報告：グループ② 活動報告書【コエル問屋町～現状を超える・声を上げる・声を交わす～】

<提案の概要>

◆問屋町における地域主体でエリア課題の抽出と課題解決に向けたアプローチを考える場 **トイラボ「TOI-LAB」** を創設

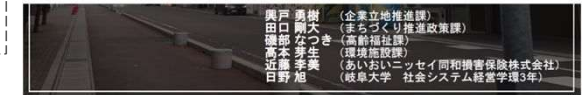


- STEP1** 空き物件を選定し、TOI-LAB管理人が常駐する相談窓口・たまり場の機能を実装
- STEP2** エリア課題の解決に向けた考え方や方法を議論する「TOI-LAB会議」を開催
- STEP3** 「TOI-LAB会議」で考えた課題解決案を地域主体で実践する



コエル問屋町

～現状を超える・声を上げる・声を交わす～



行政によるきっかけづくり ▶ 自主財源による地域・民間主体の動きへ

事業化に向けた活動

◆担当課と協議を重ね、問屋町の“現在地”と“今後の展望”について情報共有を図った **民間が動き出そうとしている**

【共通認識のポイント】

- ・高まりつつある地域の地権者や関係者等の **受け入れ側の意識** のさらなる醸成が必要であり、市としても、まずは地域・民間主体の動きのサポートにより機運醸成を図っていく
- ・その上で、**地域が主体的にまちづくりの方向性を策定**。 **エリア課題を解決する場の創設** を地域と協議

将来的に

▶ R8予算「中心市街地活性化推進事業」において「問屋町エリアにおける地域の自主的なまちづくり活動への支援」を継続実施

- ◆提案した施策は市のHP上で公開され、問題提起として一定の役割を果たした
- ◆継続してメンバーが問屋町へダイブし、まちとの関わりを大切に活動中



活動を通して得た学びなど

- ・課題抽出のための現地調査の必要性や **ステークホルダーとの関わり** の大切さ
- ・効果的な施策立案時の **トライ&エラーの繰り返し** によるプロセスの重要性
- ・行政における様々な形での「まちづくり」支援の在り方

<提案の概要>

◆ふるさと納税戦略課の創設から挑む

返礼品・体験価値の磨き上げとふるさと納税3.0を活用した地域経済の活性化



- 01 訳あり返礼品・体験型返礼品の拡充による返礼品の魅力向上。
- 02 お礼状の改善から寄附後コミュニケーションの満足度の向上。
- 03 ふるさと納税3.0(クラウドファンディング型)を活用し、地域と地元企業の活性化を図る。

ふるさと納税の意義を理解し、“4つの柱”の実行を目指す
 ・財源の確保 ・産業振興 ・寄附の使い道 ・ファンづくり



グループ③
 教育委員会 藤井 (彩)
 市民協働生活部 柴田
 危機管理部 丸尾
 財政部 乙部
 十六総合研究所 藤井 (美)
 岐阜大学

事業化に向けた活動

● ふるさと納税は寄附金であるほか、返礼品によるシティプロモーションや経済活性化という側面がある。このため、各担当部局の知見を活かし連携して実施する必要があることに加え、経費等の課題もあることから、「ふるさと納税戦略課」を創設するのではなく、関係課の連携により、提案内容について取り組むこととなった。

- 01 訳あり返礼品については、飛騨牛やあられの一部で導入済みであり、市長公室にて今後も各事業者に対し、訳あり返礼品の提供などについて提案していく。また、岐阜城すす払い体験、岐阜城夜間貸し切りなどの岐阜市ならではの体験型返礼品のラインナップの充実を図る。
- 02 お礼状は寄附者との「継続的な関係構築」ができ、岐阜市の“ファン”を増やす有効な手段であることから、グループ3から新たなお礼状案を提案、市民協働生活部にて一新する。
- 03 経済部にて令和8年度から岐阜市地場産品創出等支援事業を実施予定。新たな地場産品の創出または既存の地場産品の生産強化する事業を対象にふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディングによる寄附を募る。



この活動を通して、岐阜市のふるさと納税の改善策や今後の在り方を考えるきっかけにすることができた。

活動を通して得た学びなど

- 現状と理想のギャップを埋めるための課題解決能力
- 政策立案のプロセスやトライアンドエラーの繰り返しによる提案のブラッシュアップの方法
- より効果的な提案をするための官民協力の重要性

3 各グループの活動報告：グループ④ 活動報告書【#ぎふベジ認知度向上プロジェクト】

<提案の概要>

◆ぎふベジストーリーの作成・発信により、ぎふベジの認知度を現状の41%から50%に向上させる

- ・認知度向上によりぎふベジの消費量増加・ブランド力向上を進め農家の収益増加を図る
- ・コッペ亭と島小学校がぎふベジのひとつである枝豆を使用したコラボ商品を開発することでぎふベジにストーリーを生み出す
- ・開発商品のお披露目を行い、その後市民が集まるイベントやコッペ亭店舗等で販売
- ・商品開発の工程を動画等により発信、YouTube広告なども活用し合計動画再生数20,000回以上を目指す

【効果検証における指標】

「認知者数(当該企画で制作する動画の再生数)」及び「ぎふベジ認知度」



事業化に向けた活動

- ・農林課と連携し、学校指導課、島小学校、コッペ亭、JAぎふ等の関係者間で複数回の打ち合わせを実施。事業全体のスケジュール整理や枝豆の確保に向けた調整など、立案内容を実現するために擦り合わせ等を行った。
- ・授業内容の構成や、アイデア創出から商品完成に至るまでのプロセスについて見直し。商品開発規模を **1商品から4商品(各クラスから1つ)** へ拡大した。販売体験については、**枝豆バザーをはじめとする地域イベントでの実施**を視野に入れ、現在検討を進めている。
- ・動画については **ショート動画(90秒)×3本、まとめ動画(10分)を制作することとし、広く人の目に触れること及びぎふベジや商品開発について深く知ってもらうことの両立を追求。**
- ・【予算要求額】1,857千円 ⇒ **【査定結果】1,857千円(増減なし)**

活動を通して得た学びなど

- ・理想と現実の制約条件(予算・関係者・スケジュール等)のバランスを考慮した政策形成の重要性
- ・データと根拠に基づく事業立案(EBPM)の必要性
- ・対話を通じた新たな視点の獲得と多様な関係者との合意形成による事業の質向上
- ・将来(数年後)を見据え視座を高くもつことの重要性
- ・若手職員の主体性と関係者を巻き込む力の重要性

4 活動を振り返って(岐阜大学社会システム経営学環 教授 出村嘉史)

令和7年度の「岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ」研修、お疲れさまでした。修了した今、達成感はいかがでしょう。それぞれに振り返りをして、できたこと、できるようになったこと、見方、感じ方の変化などを省察できるとよいと思います。

『岐阜市未来のまちづくり構想』に挙げられている課題からスタートしましたね。理想の状態を描いて、そこへ至るための、より解像度の高い課題を求めました。多世代がつながるとはどういうことか？魅力的な市街地とは？助け合える地域社会とはどのような状態か？市の内外の人たちがこのまちの良さに気が付くには何をすべき？非常に本質的な問いから始まったと思います。この時点では、どこに出口があるか不明でしたね。

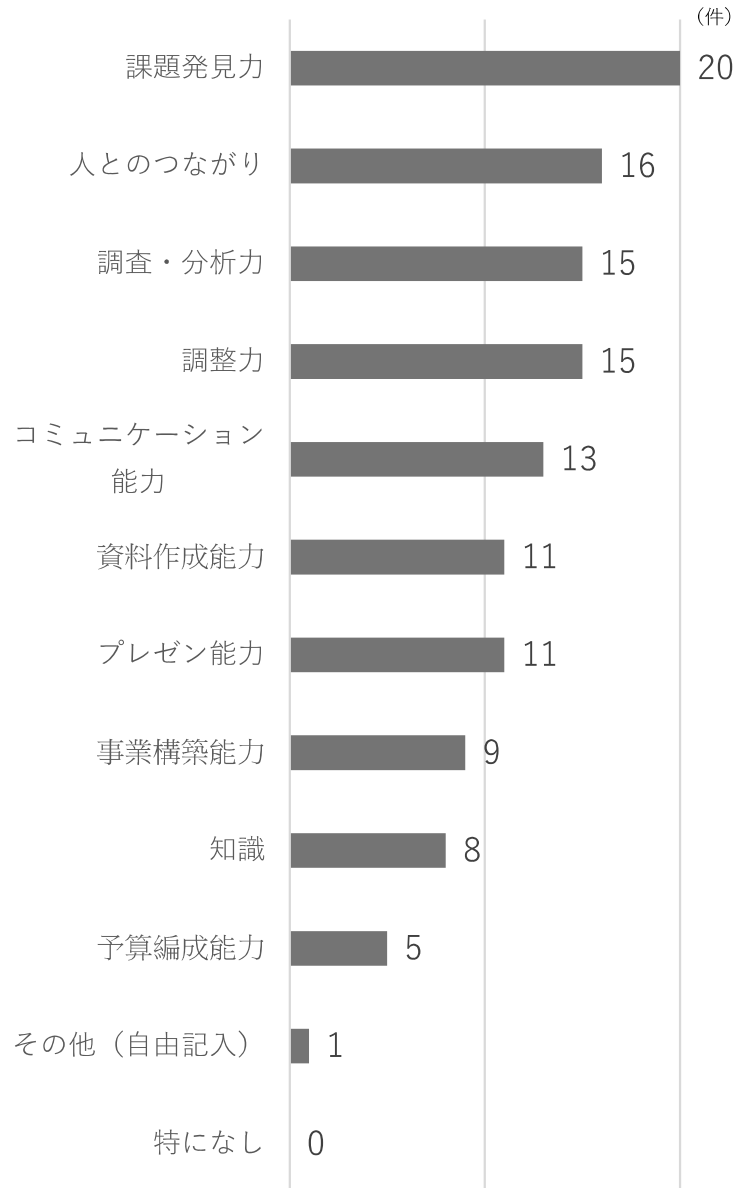
普段は庁内(や組織内)で思考することに慣れていると思いますが、この研修では、敢えて市井にも目を向けて、よく見て対話するように促しました。皆さんは、その点も積極的に動くことができていたと思います。実際の現場の人々の話を捉えて、先の問いがより洗練されていきました。これまでの岐阜市の施策に対しても、よく勉強して議論していて、既に形になりつつあるものを理解してその先へつなぐ姿勢もよく表れていました。そのために、「夢物語」を現場にぶつけて困らせるようなことは少なく(恐らく!)、関係部署に助けていただける場面も多くみられたように思います。そして、今年例年以上に、実践的な道筋を描くことができていて、まず小さくはじめて大きく展開する構想の中で現実的な第一歩をどうすべきかにフォーカスできていたと思います。

その結果、施策の提案が非常に高水準のものに高められていました。時間が限られる中での議論と追い込み、思いの強さを感じました。市長へのプレゼンは、どれも素晴らしかったと思います。ただ何かを実施すればいい、というものではなく、実施する意義や背景をデータで示しながら、実践すればきっと新しい未来が拓くと信じられるものばかりでした。市長も、毎年のように真摯に提案内容に傾聴し、まっすぐに応えていただけるので、ご自身の政策方針について時間をかけて熱く説かれる場面もありました。真にこの市の未来の姿を描いて議論する場合、現在の政策とその背後にある思想を遡上に挙げることになるのはある意味必然ですが、必要と感じて果敢に提案するメンバーと、これを受け止めてちゃんと議論する首長がいることの凄さ、これは岐阜市内の信頼関係を示す名場面でした。

現実的な答えは簡単には見つからず、それでも問題を見つめて課題を明確にし、創造性のある解決策を得るには、粘り強く考えて視野を拓いた先の別次元に答えがあることに気付いていることが大切です。必然的な道を辿ってきたように見えたかもしれませんが、それは同時に、初めの時点から別次元の答えを得た感覚もあったでしょう。それは、周囲と共同した成果であり、これからも、きっと様々な局面で困難を切り抜ける方法になります。このワーキングメンバーの絆をぜひ大事にいただき、そうした一人一人の連携が、まだ見ぬ未来を拓くことを忘れないでいてほしいです。

5 アンケート調査結果

Q1：ワーキンググループに参加して、自身を向上させるうえで役立つと思うものはありましたか。



（選択肢から複数回答）

・事業立案は多くのスキルが求められてくるものであり、1年間のミーティングによって養われたと強く思う。

・パワーポイントを使った資料作成や多くの人前で話すプレゼンすることに対してかなりの苦手意識があった。

この1年間のワーキンググループの活動に参加したことで、中間発表、最終プレゼン、報告会と段階的に取り組んでいく中で、資料作成のスキルやプレゼン能力が向上したと実感できた。

・自らの手で課題を発見し、関係課やチームメンバーとのコミュニケーションの中で資料発表まで行うことができた。

・事業立案にあたっては、まず課題を発見することから始まり、そこに至るまでの調査・分析（なぜなぜを繰り返していく深掘り）を行い、そのうえで課題解決のために何が最適な手段となるのかといった方法を模索する能力が必要だと感じました。そして、事業を実現するにあたってはステークホルダーとのコミュニケーションや調整が不可欠であり、その際には相手方の背景を理解したうえでの説明力の必要性を学びました。

ワーキンググループの中では大学の先生方に説明する機会はもちろん事業課への説明もあり、プレゼン・説明力をつける機会になったと思いました。

また、説明に際しては、事前に資料を作成することで相手とのコミュニケーションが円滑に進みやすくなることを学び、いかに体系的で分かりやすい資料を作成するかが重要であると理解しました。

まだまだ自分には足りない能力ばかりであり、今後の課題として取り組んでいきたいです。

・実際に施策として実現を目標に動いたため、実態を知るための調査やそれを踏まえた実現可能な事業立案をする力が身についた。

・課題はたくさんあるが、どうやって解決していくか、どこに焦点をあてるのかを問い続けるのが難しかったが、経験したことがなかったので、勉強になりました。

Q1：ワーキンググループに参加して、自身を向上させるうえで役立つと思うものはありましたか。

・項目全て自身を向上させる上で役立つと感じています。

特に、課題発見力に関しては一番時間をかけ、悩んだ部分でした。悩んだ理由として、普段の生活の中で、多くの視点で物事を見ていなかったことが挙げられますし、まだ自身に足りていない力なのだと感じました。この力を向上させることで、課題解決の際はもちろん、前例踏襲したままの業務の効率化を図る際や、新たな事業を構想したい場面などで、原因究明する際に役立つと思うため、選びました。また、調整力については、グループワークの時から、関係部署・企業とのやり取りの際まで、常に求められていた力だと感じました。調整力は、組織で動く時に不可欠な力であり、どの仕事をする際にも役立つ力だと思うため、選びました。

調整するためには、自分の意見を一通り明確に持つ必要がありますし、相手の意見を噛み砕いて理解していく必要があると思います。それが達成できた上で、お互いの共通項や繋げられる部分などを見出して、事業化に向けて調整していくことができるのだと感じました。印象的だった場面は、グループワークの時間にて、意見を無差別にとにかく出し合ってみるというやり方を、途中から、個人で一つのアイデアを完成させてみて、一人ひとり発表・講評してみるというやり方に変えた時でした。調整するには、そもそも個人の意見が一つに固まっていないとできないし、無差別に意見を出し合うと、それを集約することも指摘しあうことも難しいということに気づくことができました。これから調整力を磨くために、自分の中で、拙くてもいいので一度構想を完成させてみる・一貫した意見を持つてみることを大事にしていきたいですし、それをした上で、相手の意見を聞いて自分の意見と相手の意見・世の中の現状とを擦り合わせていく力を鍛えていきたいです。

・課題設定の力が向上し、設定した目的に対して効果的な解決策を考え、それを現実的に実現する事業構築についても発見がありました。当初、4グループの提案は大学教授のアドバイスで無印良品のシャークカレーを参考にしていたため、完全にゼロから新しい事業を考案したという実感は薄いものでした。しかし、事業を組み立てる中で、考えは変化しました。この経験から学んだのは、施策提案とは推理小説やマジックのようなものだということです。同じ種（アイデアの基礎）を使ったとしても、そこに至るまでのストーリーや目的意識によって見せ方や最終的な形が変わり、独自の価値あるものへと発展していくということが分かりました。

予算編成については関係課既存の事業に乗っかる形となったものの、基礎的な経験は積むことができました。

人とのつながりという点では、様々な関係者との協力関係を構築できたことが大きな収穫でした。

・大学の先生方から「デザイン思考」を学んだことで、視点を変えながら問いを繰り返すことで問題を深堀して、問題の原因を探ることが課題解決に効果的だと知りました。知識としては理解しましたが、これを実践して施策案を考えることは難しく、グループメンバーと協力して調査や資料整理を行ったり、地域の方にお話を伺ったり、大学の先生方や関係課の方々からヒントを得ながらやっと施策案を形にすることができました。多くの人とつながり、協力することによって、自分自身のQ1の能力向上ができたと思います。

・理想の状態と現実のギャップをEBPMに基づいて提案する構成を学ぶことができた。

岐阜市関係職員の方々、岐阜大学の教授の皆様、プロジェクトに関わる関係者との繋がりができたのは、自分の人生にとっても大きなプラスとなった。

・本質の課題を見つけるための現地調査、分析が非常に重要だと感じた。

Q1：ワーキンググループに参加して、自身を向上させるうえで役立つと思うものはありましたか。

- ・自分一人で考えたり資料を作っても息詰まることが多く先に進めなかったので、改めてチームでまとまって提案や改善をしていくことでよりよい物ができると感じました。
コミュニケーションについては市の職員以外にも外部団体の方や、発表に向けて民間企業に訪問したりすることがあるので、コミュニケーション能力の向上という面ではとてもいいと思いました。
- ・仕事の中で、問題の本質を見極めることや広い視野で物事を見ることが大切になってくると感じた。
また、個人や所属のみで完結できない仕事も日常的には多くあり、庁内での縦軸、横軸でのつながりや外部機関との連携も不可欠になってくると思った。
- ・課題に対してアイデア出しする機会はあっても、表面的でなくきちんと本質を見抜き、「本当の課題」を抽出するプロセスはなかなか経験できないと思います。本気で挑んだからこそ見えた本質がありました。
プレゼン等の上手い、下手は経験だと思っていますので、若手職員で、かつ市長をはじめ多くの方の前でプレゼンする機会を得られたことがまず財産と感じます。
- ・公共施策を立案するのは初めてで分からないことがたくさんあったので、どこにうまくいかない原因があるか、どうすれば打開できるのかを考え、分析することはとても役立ちました。
- ・岐阜大学の先生方の講義を受け、理想の状態を叶えるために何が課題となっているか、その課題を解決するために必要な事業であると受け入れてもらうためにどのような内容・プレゼンをするかについて、普段関わることのない他部署・民間・学生が1つのチームとして何度も話し合うことで、課題発見力、調査・分析力、プレゼン能力、コミュニケーション能力が身についたと感じた。
- ・リアルな現場で政策を考案するという事は、まず人とのつながり、信頼関係こそが重要だと感じた。関係者からの理解を得る調整力やそのために根拠を持って提案できる課題発見の力が最重要であり、基礎的なことだと感じた。
- ・項目すべてが業務で必要だと感じた。
- ・【課題発見力】そもそも課題を発見できなければ政策を立てることができない。
- ・普段の業務では関わることのない、他部署や学生、民間企業の人と交流できたことは良い経験となった。
- ・普段業務上関わることのない人と出会えた。

Q2：若手職員が活躍する組織風土が醸成されていると思いますか。

(%)



■ 思う

| やや思う

＝ どちらとも言えない

思う	<ul style="list-style-type: none"> ・年次に関わらず意見を言うことができる雰囲気、実現できなことであっても話を聞いてもらい、なぜ難しいのか教えて貰う事ができる環境だと思う。 ・自由闊達に行動できるテーマ、環境だと思うため。 ・自分は若手という年齢ではないですが、20代（特に市役所に入庁して3年以内）の方には、素晴らしい経験になると思います。 ・岐阜市役所の職員の皆さんが、部署を超えて積極的にコミュニケーションを図っていたため、若手職員が自由に活動できる組織風土が醸成されていると感じました。 ・このようにワーキンググループの実施は若手の意見を市長さんや大学教授の方に伝え、市の事業化を目指すということは他ではあまり経験できないためとてもいいことだと思う。このようなイベントは若手職員が活躍するいい機会になるといえる。
やや思う	<ul style="list-style-type: none"> ・本ワーキンググループのように研修も実施されていますし、若手職員が自身の上司に提案が行なえる雰囲気作りがされていると思います。 ・こうしたチャレンジができる風土というのはどこの市でもやってるわけではないと思う。 ・基盤整備部では、今年度からJOMプロジェクトというものが行われています。内容としては、若手職員の中でチームをつくり、業務改善のための斬新なアイデアを出し合う活動や、普段関わることが無い、他の課の仕事を現地で見学する活動など、若手職員が活躍したり、経験を得たりできる機会が設けられていると思います。 ・関係者の方に自分たちの考えた事業に真剣に向き合ってもらったり、所属課で気にかけていただいたりした。 ・トップダウンでやらされている仕事が多い中ですが、DXも進み、管理職の方々の配慮もあり、当部では若手職員のチャレンジがしやすい風土は徐々に醸成されていると感じています。 ・若手職員がどうかに限らず、能力さえあれば活躍する組織風土が醸成されている。ワーキンググループの優秀なメンバーや、仕事ができる同期をみているとそう思う。 ・ある程度年功序列の文化を感じたが、このプロジェクトのように、若手の成長機会が他にもあるのかなと思った。田口さんみたいな人が居るうちは、若手がイキイキしていると言えると思う。 ・若手プロジェクトの活動は若手が活躍する風土醸成に寄与していると考えます。若手PTの件ですと言えば、関係課の皆さんころよく話を聞いてくださったことがたくさんありました。 またアンケートにも多くの方に回答いただき、正直驚きましたが、若手プロジェクトの活動を応援して下さる方が増えているのかなと感じました。 ただこのプロジェクトの参加に対する位置づけが所属部署によってはまだまだ理解されていない気もしています。私は幸運にも理解があり一番に応援して下さる所属の皆様に恵まれたこともあり、大変活動がしやすかったです。部署や民間企業によってはそうではなく、通常業務もあるなかで負担のあるメンバーもいたのではないかと思います。

Q2：若手職員が活躍する組織風土が醸成されていると思いますか。

どちらとも
言えない

・こうした提案の場所があること、また素晴らしい先生に出会えたため。ただ、自分の職場の仕事は減らないため負担が大きかった。

・醸成されているというより、限られた人員の中で、求められる成果にこたえていけないといけなないので、若手職員も必然的にある程度の仕事（活躍）をしないとイケない環境はあると思う。ただし、若手職員の独創的な発想が活かされる環境かと言えばそうではないと思う。

・まだ異動したことがなく全体を見たことがないため。

・経験値から得られることが多く、年功序列の風土は残っていると思う。

・部署や担当業務によって、違いがあるため。

・ワーキンググループは若手職員が活躍する組織風土を醸成する1つの方法だとは思いますが、参加したいと思う職員が少ないと思うから。参加したい、もしくは参加してもよいと思えるようにする環境等が必要だと思います。自分は、終わってみればやってよかったと感じていますが、参加するまでは「若手PT大変だ」という噂が先行して正直あまり前向きではありませんでした。

・「若手職員の活躍」が具体的に何を指すのかは定義が曖昧ですが、部署としてワーキンググループ（若手PT）への参加や協力を消極的な姿勢があったとしても、その部署内で若手が別の形で活躍していない訳ではないため、一概に判断することは難しいと思いました。

若手PTに関して言えば、例によって部長級や執行部に近い層では理解が深い一方、そこから離れるにつれて意識が薄れていくように感じるため、組織全体で活発であるとは現時点では言い切れません。しかし、このようなプロジェクト自体が存在することは、組織としての前向きな姿勢を示しており、風土醸成がされているとも言えると思います。

今回、所属部署を含む関係部署が非常に協力的だったことは、実際のところ幸運だったと感じています。

私自身の経験では、現在の所属部署は若手PTへの参加を快諾してくれましたが、年末の面談で上司から「最初は参加に不安を持っていた」と告げられました。このことから、形式的な理解と実際の認識には、かなりの隔たりがあると実感しています。

Q3：ワーキンググループに参加して、良かったと思いますか。

(%)



■ 思う

▨ やや思う

□ どちらとも言えない

■ あまり思わない

良かった

・参加して良かったと思う理由は二つあります。

一つは、通常業務とは異なる環境下で、全く新しいアイデアを創出するという活動が、非常に有意義で楽しいものだったと感じたからです。部や課を超えて、岐阜市という大きな枠組みの中で、課題発見から事業化までやってみるという行為は、本ワーキンググループ以外ではなかなか経験できないものだと思います。さらに、岐阜大学の先生方に、直接アドバイスを受けることができたのも貴重な機会であったと感じています。自分でアイデアをたくさん考えてみることも、それを人と共有し、議論していくことも好きなので、悩む時間が多かったとはいえ、それ以上にやりがいが大きかったと思います。

もう一つは、自分以外の方達の考えや熱意に触れられたからです。

グループ内には、他部署の職員3名、民間企業の方1名、大学生の方1名がおり、5通りの新鮮な意見や、独自のスキルに圧倒されることが多くありました。また、他部署・民間企業との打ち合わせでも、少し凝り固まっていたグループの中の構想が、多方面からの意見をいただくことで、さらに魅力的な事業内容に磨き上げることができたと感じました。また、それぞれの組織における、譲れない部分・貫きたい部分を聞き取ることができたのも、貴重な経験だったと思います。

・「想像より」ずっと楽しかったことが最大の理由です。ただし、この「楽しさ」は以下のような恵まれた環境と配慮があったからこそ成り立ったものだと感じています。

積極的なグループメンバー：全員がプラス思考で、サボる人がいませんでした（民間企業のプロジェクト参画一年目で意欲が高く、自由に動ける部署からの参加であったことも大きい）

頼りになる事務局：話しやすく、サポート体制が充実していました（様々な調整をしていただき感謝しています）

理解のある職場環境：業務の割り振りや声かけなど、十分なバックアップがありました

協力的な関係部署：関係課の方々が迷惑がらず、前向きに対応してくださいました

多様な視点の確保：大学教授や民間企業など第三者の目があることで、適度な緊張感と多角的な視点が保たれました

「想像より」と表現したのは、若手PTの実態について事前に十分理解していなかったからです。当初は参加者だけで進めていくのかと心配していましたが、事務局からの手厚いサポートがあり、驚きました。本当にありがとうございました。

若手PTの強みはを二つ挙げるならば、一つは「若手PT」という肩書きを"笠に着て"活動できること、もう一つは困ったときに事務局という頼れる"駆け込み寺"があることと感じました。ただ、これらの強みはなかなか外部の方々に伝わりにくい特徴かもしれません。

・市長に発表するという貴重な経験ができ、多角的な視点の重要性に気づくことができた。実際に事業化する可能性があったため、実現可能性があるものを企画する必要がありより深くまで考えることができた。

・普段の仕事では政策立案に関わることはないのですがどのようなプロセスを経て政策が実施されるのかを少し分かった気がした。また、様々な人との関りが多かったため、これからの人生の中で必ず糧になると感じました。

Q3：ワーキンググループに参加して、良かったと思いますか。

良かった

・事業立案等の企画業務については、苦手意識がありグループワークについても不安がありましたが、終わってみて本当に参加してよかったと思いました。

普段の業務ではできない部署横断かつ民間企業や大学生の方々と協働でき、苦労を共にできたことはかけがえのない財産です。今後もこのご縁を大切にしていきたいと思います。

今までは恥ずかしながら、目の前の業務をこなすだけのことが多かったですが、何が本当に理想と現状のギャップから何が課題となっているのか常に深掘りしていく視点は、事業立案のみならず、今後いかなる業務を行ううえでも必要な力だと感じています。今後自身のキャリア形成においてよい転換点となったと感じております。

・自分の成長に繋がり、新たな視点の獲得や気づきがあったから。課題のコアを見つけ、様々な視点から解決案を模索し、関係課と調整しながら事業化を目指す過程が今までにない非常によい経験でした。

・施策立案に向けたプロセスやEBPMの重要性を体感できたため。また、何度も挫折する局面に立ち会ったが、粘り強く活動することの大切さを改めて学んだため。

・Q1に挙げられている様々な力がついたり、いろいろな人とのつながりができたことが良かったと思います。関係課や庁外の方々、グループメンバーとも、このワーキンググループがなければつながることができなかつたかもしれません。様々な人とのつながりが自身の考え方に刺激を与え、物事をとらえる視点が増えたように感じます。

・活動報告会でも述べたことが全てですが、率直に苦しい経験がとても楽しかったです。その苦しい思いや経験もチームで分かち合い、共有できたことで、次に進む力にできた実感があります（ただの愚痴にしなかったことがポイントだと思います）。苦しいのになぜか憂鬱ではなく、優越感を覚えるという謎状態もありました（DMではありません）。

・プロジェクトの過程でグループ自らが考え抜いたアイデアが、政策として実現されたのは自分にとって大きな財産となりました。

・岐阜市役所のこと、行政の事を知れたし、市役所の方とも仲良くなれた。また、予算化を目指して施策立案をすることの難しさを体感できたから。

・岐阜市の職員の方と、自治体目線での地域課題解決について知ることができ大変有意義な時間を過ごすことができました。

・市役所や民間、大学生の方との関わりによって、素晴らしい出会いを経験することができた。また課題解決能力や分析力など大いに養うことができたといえる。参加してとても良かったといえる。

Q3：ワーキンググループに参加して、良かったと思いますか。

やや 良かった	<ul style="list-style-type: none">・先生方のフィードバックを受けて事業を再考する際は苦慮することも多かったが、担当課やグループメンバーとの話し合い、現地への取材などを重ね、課題解決のために必要なものを見つめ直すこと、そこに行政がどのように関わるべきか、民間の役割はなにか、ということを考えることができた。特に、行政が果たすべき役割は今後の業務でも特に重要な視点だと感じた。・財務に関する業務に関わりがない課に在籍しているため、一通りの業務を学べたことは貴重な経験だった。・普段関わることのない人たちとコミュニケーションをとり、試行錯誤しながら活動する機会は自己成長につながるから。・ふだん働いているなかでは得られない視点を持つことができたため。・普段業務上関わることのない人と出会ったためまた政策立案という普段行わない業務に携われたため
どちらとも 言えない	<ul style="list-style-type: none">・良い経験になったと思うが、日常業務と並行して行うのは大変だった。
あまり 良くなかった	<ul style="list-style-type: none">・チームに偏りがあったと思った。チーム内で業務をやる人に偏りがあったと思う。

Q4：本ワーキンググループで改善してほしいと思うことはありますか。

<p>日程調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの時間内に案がまとまるのが少なかったため、定時時間外に残業として作業することが多くありました。大学の先生方がお呼びできなくとも、定時に「グループメンバーだけでグループワークを行う時間」を設けてほしいと感じました。 ・研修以外でも集まれる時間があるとよいと思いました。どうしても日程調整を行うと夜しか集まらないということがあったので、あらかじめ指定されると大学生や民間企業の方などは参加しやすいのかなと思いました。 <p>→各グループが相談や作業等、自由に取り組むことができるプチグループワークを設けました。</p>
<p>予算化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EBPMや予算について基礎的な知識が分かるような資料が配布されるとありがたいです。研修の中で実践的に学ぶといった狙いがあると思うのですが、事前の知識があると理解度が変わるのではないかと思います。 ・参加メンバーが若手に限られるため、予算化までの流れを把握できていない職員も多い。事業化・予算化する上で、大まかな年間スケジュールは前もって提示してほしい。また、予算化に関する研修会を実施するか、キャビネット内に保存されている各種マニュアルの場所をあらかじめ説明していただければ、通常業務の合間を縫って勉強することもできたので、検討してほしい。 <p>→EBPM勉強会等の情報を共有してまいります。また、予算については事務局より説明させていただきます。</p>
<p>選出方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションの高い職員のみを絞って、完全に手上げ方式とするべき。 ・改善点ではありませんが、個人的には、立候補メンバーだけで構成された特命チームみたいなものの動きとか提案はとても面白いんじゃないかと思います。 ・無理やり選出されて文句を言う人もいたため、改善できるとよいと思った。 <p>→各部からの推薦を廃止し、立候補のみとすることにしました。</p>
<p>業務との両立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常業務との両立が求められる中、資料作成や打ち合わせ、関係者との調整などは業務時間内に収まりきらず、必然的に時間外の対応が発生します。この点について、事前の認識共有や何らかのサポート体制の構築が必要だと強く感じました。 ・通常業務を多少配慮してもらうよう各課に働きかけていただけるとありがたいです。通常業務を行いながら若手PTも並行して行わなければならないため、若手PT分残業が増えたりして、それも苦しかったです。 ・事務局から参加者の所属長と事前に協議し、業務量のバランスを考えていただけると幸いです。 <p>→通常業務に配慮していただけるよう政策課長会議にて依頼、所属先にもお願いしております。引き続き、ご理解いただけるよう努めるとともに、R8年度より若手職員の負担を減らすため、総合政策課が積極的にサポートしてまいります。</p>
<p>民間企業参加者・大学生との連絡手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所職員、学生、民間企業の方でのスライドの共同編集などが難しかった。 ・外部の人と、岐阜市役所内の人で持っている情報に少し差があるように感じたため、共通の連絡手段があるとよいと思った。 ・民間企業参加者、学生、職員の間で事務局から提供される情報に差があると感じることがありました。何回か伝達にかかる時差なのか情報不足なのかがあって、グループ内で調整したことが記憶にあります。情報共有はグループワークにおいても常に課題がありました。 <p>→総合政策課の管理下において、共同編集等ができるようにしました。</p>

Q4：本ワーキンググループで改善してほしいと思うことはありますか。

<p>他グループとの交流</p>	<ul style="list-style-type: none">・他グループの方との自分たちの考える案について意見交換会の機会があるとよいなと思いました。・自分のチームメンバーとの交流だけでなく、もっと他のチームメンバーとの交流の機会があってもよかったと思う。 <p>→グループワークやプチグループワークで交流の機会を設けます。</p>
<p>インセンティブ</p>	<ul style="list-style-type: none">・要望としては案が採用されたグループに何かインセンティブがあると、もっとメンバーのやる気が出るのではないかと思います。・自分たちが考えた施策においては、担当課の方が親身になって相談に乗ってくれたものの、若手プロジェクトチームで考えた施策に対して、事業担当課が快く相談に乗ってくれたり、受け取ってくれる環境が庁内にあるとよい。（事業担当課が評価されるような仕組みがあるとよい） <p>→立案した事業に後年も携わっていけるよう人事課との調整を行っております。事業担当課には一般財源配分枠とは別に事業費が措置されています。</p>

Q5：感想（自由記述）

- ・本プロジェクトで、自分の強みと課題を確認することができました。強みとしては、物事を客観的に、多面的に観察することや、複数の意見を組み合わせること、悩ましい場面においても、粘り強く企画考案を繰り返してみることでと言えます。課題としては、予算編成に関する基礎的な知識の不足や、人が見やすい・わかりやすいと感じる資料の作り方、プレゼン能力だと言えます。班員の方の中には、予算編成に関する知識が豊富で、やり方の要領を得ている方や、資料の色合い・言葉遣いが簡潔で説得力のあるものを選択できる方、プレゼンを何度も経験しており、セリフのようなプレゼンではなく自分の言葉で話すことができる方など、多方面においてスキルを身に付けている方達ばかりでした。予算編成については、普段の業務で自ら作成する機会はあまりないのですが、予算に関する決裁を確認・承認する際には、単なる数字のチェックだけでなく、作成する側の目線を見て、勉強していきたいです。また、資料作りが上手い方にそのコツを聞くと、自分で、業務とは別で、デザインや資料作りに関する勉強をしているとのことだったので、今の自分ではできないと思った分野については、自らとことん調べて勉強していく姿勢を見習いたいと感じました。本プロジェクトにおいて、企画立案に関する新たな発見・経験はもちろんたくさんありましたが、グループの方とたくさん対話できたことが、非常に良かったと感じています。年齢が近い方だからこそ話せる・聞ける話もありましたし、過去の経験や他部署の業務内容など、多くのことを吸収できたと感じています。二度目の参加ができないことが残念ですが、本プロジェクトで学んだことや感じたことを、普段の業務中に反芻しながら成長していきます。
- ・事業を一から考えるのは本当に難しく、グループ活動中は心が折れることもありましたが、逃げずに仲間とともにやり遂げれたことを今後の業務の糧にしていきたいと思えます。もっと早くに本プロジェクト参加しておけばよかったと思いますが、今年度参加したからこそ出会えたご縁もあると信じていますし、このタイミングだったからこそできたことをもあつたとは感じております。優秀な若手職員や民間企業、大学生の方を活動でき、本当に刺激的で充実した一年になりました！大学の先生方はもちろんこのような機会をくださった企画部総合政策課の皆様、グループメンバー、所属部署、関係課、アンケートに回答くださった全ての皆様に感謝しかないです。事務局の方々にはいつも相談にのっていただき、事業が実現されることを一番に応援して下さって、関係課との調整業務にも一緒にはいつていただき常に助けていただき、本当にありがとうございました。
- ・案が作れなくて苦しい時もあったけど、グループの皆さんと楽しく活動することができた。今後も繋がりをもちたいと思える人たちで幸せに思う。
- ・このワーキンググループを通じて、自分自身の成長を実感すると同時に、行政の可能性も再認識できました。特に印象に残ったのは、「岐阜市の職員であるからこそ話を聞いてもらえる」という価値に気づかされた瞬間です。日常業務の中では見失いがちな視点ですが、民間企業との協働を通じて、自治体という立場の強みを改めて認識できました。また、関係者との協働によって事業がブラッシュアップされていく過程は、今後の業務においても大いに役立つ経験になりました。このような機会を提供していただいた皆様、協力して下さった全ての方々に感謝しております。今回の経験を今後の業務に活かし、岐阜市の発展に貢献していきたいと思えます。
- ・通常業務では得られない貴重な経験をさせていただきました。活動中は非常に苦しかったです、振り返るとどれも自分の成長に繋がることばかりだったので参加して良かったです。事務局の方をはじめたくさんの方々を支えていただいてこの貴重な経験ができました、本当にありがとうございました。

Q5：感想（自由記述）

・プロジェクトに参加している間はただただ苦しかったが、終わってみたらなんだかんだと言って参加してよかったと思える。様々な部署の職員が集うことで、多角的な視点で物事を深掘り、自身では思いつかないようなアイデアをたくさん吸収することができた。自分が普段いかにぬるま湯に浸かったまま仕事をしてきたかがよく分かった。大反省。

・岐阜市総合政策課の皆様、岐阜大学の教授の皆様、1年間に渡り本プロジェクトの運営をお疲れ様でした。本取り組みを今後とも応援しております。何かお力になれることがありましたら、今後とも協力できればと思います。

・先生方は本当に親身になって相談にのってくれて本当にありがたかった。また、自分にない考え方を知ることができた。職場にも若手PTを知っている人がどんどん増えていくことでもっとやりやすい環境が構築されていくのだと思った。

・最終報告会での市長や出村先生の講評、総括でいただいた言葉が印象的でした。信頼の上で成り立つ関係性、人を頼るのも実力のうちだというイメージがとても明確になりました。所属課でのあり方や私たちチームの提案も、まさに信頼される個人、チームになることがとても重要なポイントでした。

今後、庁内・庁外問わず、信頼の上での味方づくり、仲間づくりを頑張りたいと思います。事務局批判はまったくありません。各チームの進捗状況をみながら色々とサポートしてくださり、大変助かりました。ありがとうございました。

・参加したことで他部署の視点や行政の役割について考えられたこと、チームで1つの提案に向かって話し合ったことを今後の業務でも生かしていきたいです。また、問屋町の今後についても注視したいです。

・キックオフ直前まで考えていたよりも、実際に始まると苦労の連続で、つらいと思う時も何度もありました。メンバー6人とも、「まちづくり＝建物を建てる」と視点が同じだったため、実体のないものをまちづくりとして考える視点を得るまで、とても苦労をしました。施策案を白紙に戻したことも1度ではありませんし、時には大学の先生方と不穏な空気になることもありました。（任命式で柴橋市長が「施策を作成する作業は、グループメンバーを乗せた船で大海原に漕ぎ出すよう」と例えていましたが、我々のグループは、目を離した際に沈み始めていた船で慌てて岸へ戻るということが何度かありました。）

そんな我々グループが施策を完成させて提案できたのは、多くの人とのつながりがあってこそだと思います。大学の先生方は、何度もフィードバックをくださり、実体のある建物以外にも、実体のない仕組み作りを考えるという視点に気付かせてくださりました。関係課の方々は、問屋町の現状と施策の進捗を教えてください、地域の方とつながるヒントをくださりました。地域の方は、快く何度もお話を聞かせてくださり、自分たちの町を良くするために協力してくださりました。事務局の方々は、我々と多くの方々と繋げて話す場を設けてくださり、最後まで細やかなサポートをしてくださりました。そして、メンバーの皆は、役割分担しながら自身にできることを最大限に行ない、助け合いながら1つの施策を完成することができました。私もデザイン思考を学び、懸命に取り組んでいましたが、私一人だけでは絶対に施策の完成はできませんでした。

今後も、本ワーキンググループで学んだ知識や能力はもちろんですが、ここで得たつながりも大切にしながら、岐阜市と市民のために業務に励みたいと思います。1年間お世話になりました。ありがとうございます。

・今回このような機会を頂き心から感謝申し上げます。業務で普段関わることのない部署や学生の方々と関わったことは自己成長につながり、今後の糧となりました。課題を抽出し、ギャップを埋めるための案を発散し、収束に至るまでのプロセスの重要性を学びました。次年度以降もこうした若手が活躍できる機会を残してほしいと願っています。岐阜大学の先生方、総合政策課の皆さま、関係課の皆さま、ありがとうございました。